

# 言語年代学における日本語系統、縄文語を推定する

## The Origin of the Japanese Language with Glottochronology (Time Perspective between Languages), How to estimate the Jomon-Go (the parent language in Japan)

永田 良茂 (縄文地名研究家)

Yoshishige Nagata (JOMON Place Name Reseacher)

神戸市北区泉台 2-9-9

2-9-9,Izumidai,Kita-Ku,Kobe-City,Japan

あらまし：我が国では日本語もアイヌ語も系統の不明な孤立語とされて久しい。各地の地名を通して、我が国の地名の多くは日本語で解釈するよりもアイヌ語で解釈した方が本来の地名であろうと主張してきた。比較言語学の発展は多くの言語の親族関係を明らかにして来ており、日本語も南島語（オーストロネシア語族）に属することが分かってきている。

M.スワディッシュは基礎語彙を使って、言語間の分離経過年代を推定する方法を提唱し、言語年代学と称した。彼の基礎語彙100語と統計上の実験式を適用して南島語の語彙の連なりと日本語およびアイヌ語との関係を調べてみた結果、日本語の言語系統、とりわけ縄文語がどのようなものであったか推定することができたので報告する。

**Summary:** It has so far been considered that Japanese language is completely isolated or independent from the Ainu language that is spoken by a minority in Hokkaido. The author has already asserted that many place-names in Japan can be well interpreted based on the original description of the places in Ainu language. Comparative linguistics have made it clear that many languages existing in the world can be grouped into several families; e.g. Japanese language belongs to Austronesian (AN) language family.

M. Swadesh has proposed a way for estimating the time when a language was separated into different languages on the basis of their core vocabularies; he called the way Glottochronology. This paper presents an experimental result of quantitative comparison between Japanese, Ainu and AN languages on the basis of Swadesh's selecting 100 core words. Here, a kind of statistical equation has been employed, which was experimentally given by Swadesh. The experiment suggests an important role of Ainu language in the evolutionary process of Japanese language.

**キーワード：** 比較言語学、言語年代学、縄文語、アイヌ語

**Keywords：** Comparative Linguistics, Glottochronology, JOMON language, AINU language,

### 1. はじめに

地名はたとえ文化・言語が変わろうとも使われ続ける場合が多く、多くの例からはっきりするのではと、考え続けてきたが更に直接的に証明する方法がないか模索してきた。

インターネットで見つけた、ハンドルネーム、ロゼッタストーンの「学問の部屋」というホームページは、スワディッシュの基礎語彙100語に

おける日本語と南島語（オーストロネシア（AN）語族）との比較を村山七郎の研究とを対比させて独自の判断を付け加えられた意欲的な研究成果であった。これを拡張する形で、ホームページ筆者のご了解を得て、日本語とアイヌ語との関係を南島語と対比し、日本語語彙系統を明らかにすることができたと考えるのでご報告する。

## 2. 日本語系統研究の流れ

なぜ日本語系統が分からなくなっていたかという素朴な疑問とも関連し、ここで大まかな我が国の言語系統研究の歴史を追ってみよう。

我が国の言語系統論争は約100年前に藤岡勝二がウラル・アルタイ語説をとなえて以来、橋本進吉などの上代仮名遣いと母音調和の発見などにより、多くの学者に指示されるようになる。

明治末年、日韓併合の年、1910年には金沢正三郎の「日韓両国語同系論」が出ると、若くして唯一のアイヌ語の権威であった金田一京助も賛同し、「アイヌ語と日本語とは別系統」を主張した。

この頃日本民族論争も外国人、P/H.シーボルトおよびE.S.モースなどの日本人祖先としてアイヌ説、プレアイヌ説が続き、我が国初の人類学者坪井正五郎のコロボックル説に対して、その弟子鳥居龍蔵らのアイヌ説との論争は20年論争を展開し、坪井の死によってアイヌ説に決するかに見えたが、軍国化の世論と相まってヤマト単一民族

## 3. 日本列島の形成過程と民族・文化の形成過程

日本文化、日本語形成などのソフト面に対して、それらを受け入れるハードウェアとしての日本列島の形成過程を歴史的に考えると簡単なモデルでの人々の到来や文化・言語形成を容易に理解できる。

右図において、最終氷期には人類の楽園がユーラシア大陸の南東において陸続きの現在のインドネシア、幻の大陸スダラントにあり、日本列島も台湾もアジア大陸に陸続きであった。

温暖化と共に海面が上昇して、大陸の一部も海没して行き、低地で生活していた人々は移動を余儀なくされた。このような人口移動圧力はまず、大陸を北に海岸沿いに移動していった。縄文時代直前の日本列島へ来た人々はこのような人々であったであろう。(図1の朝鮮半島経由の移動)

縄文時代が始まると日本列島は大陸から離れて行き、それまで日本列島の東を遠く離れて流れていた黒潮の海流が裏日本へも流れ込み、列島を包むように流れ出すと気候も温暖となり、海流に乗った海からの人々の往来が容易になっていった。

(図1の海からの移動) 縄文文化を運んだ人々の到来を告げている。縄文中期の海進期の最盛期には海面が現在よりも10mも上がり海からの人々、

説が台頭し、アイヌ問題はタブー化されて行き、今日に至っている。

一方、日本語が南島語とアルタイ諸語との混合語であると1924年頃提唱したのはロシアの天才的言語学者のE.D.ポリワールであり、その後約10年後にドイツのO.デンプウォルフが南島語の祖語を発表して以来、東南アジアと太平洋の島々の多くの言語が南島語起源(オーストロネシア(AN)語族)であることが分かってきた。現在の日本語系統論の主流にもなってきたが、その代表はベルリン留学でアルタイ比較言語学を学んだ村山七郎であろう。[8]

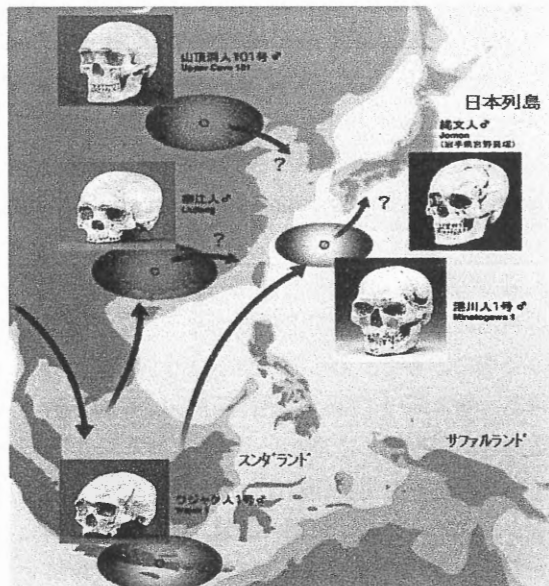
約60年前にM.スワディッシュは言語年代学を提唱しスワディズムなどと呼ばれ注目された。「14」

服部四郎は「水深測量」と称して我が国周辺の18言語間の調査をされている。[9] 評価はまちまちであったが、この方法の弱点を見直すことで新たな展開を見いだすことが出来たと考える。

の人口移動圧力もピークであった。

弥生時代に入ると大陸からの人々とその文化は縄文文化を圧倒し「倭国大乱」に見られるような激動の時代であり、文化・言語面でも短期間に急激に変化し、最終的に北に残された人々、文化がアイヌ人、アイヌ文化およびアイヌ語であろう。

図 1.最終氷期時の日本列島周辺と人々の往来 (NHK 日本人はるかな旅展 のHPから)



#### 4. 日本語・アイヌ語に対する南島諸語との比較

村山七郎の著作などから、日本語およびアイヌ語の特徴がなぜ生じたものか、本源的なものかどうかなど、南島語起源と考えることにより分かったことなど概観してみる。[8], [10] - [12]

##### 4. 1 日本語とポリネシア語の類似性

ハワイ語などのポリネシア語など、日本語と同じ5母音であり、重母音・重子音を許容せず、日本語古語と同じく濁音のない子音のみの簡易な音韻であり、母音終わり（開音節）の単語でありカタカナで書いても通じる言葉である。（大野晋のタミル語起源説のタミル語の特徴とも一致）

しかし、これらの特徴は本源的なものではなく、南島諸語の中の中心、インドネシア語派が拡散してメラネシア語派、ポリネシア語派と二次、三次的に拡散した結果であり、日本語も二次、三次的に拡散した結果であることを示しているようである。これらの言語の共通の特徴は民族移動とともに言語接触を繰り返し、より簡易な音韻に落ち着いた結果に思える。

ポリネシア語の開音節語に関して、単語には露出形（独立名詞）と被覆形（従属名詞）とがあり、露出形は開音節であり、被覆形は閉音節が保存されており、元々は閉音節があったことを示している。（日本語の被覆形の例、白（シロ）に対して、白（シラ）魚、白（シラ）サギなど。インドネシア語派の場合は露出形の場合にも閉音節語が多い）

日本語の場合も同様に語末尾子音はとれるが、被覆形においては保持されているものがあるようである。（動詞語幹など）

アイヌ語には閉音節の単語が多く、古い形を残している。（台湾諸語も同じ）日本語の場合には被覆形でも開音節であるが、原始日本語では閉音節語（VC, CVCなど）があったらうと言われている。

また、日本語の露出形、被覆形の単語の古形は双方の音韻を含む場合が見られる。

（例：「ヒ（火）:pij」に対して「ホ・ノ・ホ（炎）:po」から祖語\*(a)poi が復元される）

##### 4. 2 二音節語と単音節語

日本語は2音節の語（VCV, CVCVなど）を基本としており、ポリネシア諸語などと共通な特徴であると見られており、日本語の単音節語の多くが古語では重母音語であったと言われている。一方、アイヌ語は単音節語を基本としていると考えられている。

しかしこのことも本源的ではなく、南島諸語の場合は接辞と語幹の各1音節の組み合わせの場合が多く、もともとは一音節で、アイヌ語の場合には長い年月の間に2音節語が1音節語に圧縮された「幹収縮」の形を取ったものが多く見られる。その結果、この概念化された語幹語により多くの合成語を形成できるようになったものではないだろうか。「アイヌ語はもとをたせば数百の単語から成り立ったもの」などの田村すす子の言葉が思い出される。

また「アラタ（新）シ」が「アタラシ」になったように、アイヌ語には南島諸語から子音間、母音間、子音・母音間の前後の入れ替わった「音位転換（メタテーゼ）」の例も多く見られる。

##### 4. 3 その他の南島語的な特徴

アイヌ語は接辞（接頭、接尾辞）を駆使した言葉であり、南島語的であり、抱合語に分類されている。日本語においても「マッシロ（白）」、「マッサオ」などの接尾辞“ma-”はインドネシア系言語に見られるものだそうである。また、インドネシア系言語には前鼻音化形の接辞（“[me]N-”など）があり、その痕跡が日本語にも見られるそうである。

また、日本語には少なくアイヌ語には多い語頭の“r”音であるが、南島祖語の“\*d”音に対応するもので、日本語ではさらに“t”音などに変わったものではと言われている。

## 5. 基礎語彙比較

1950年代にM.スワディッシュはあらゆる言語の基礎語彙がほぼ同じ速度で崩壊することに着目し、言語年代学を提唱した。インド・ヨーロッパ語族等の13の言語から統計的に二言語間の分離年代を算出する実験式として

$$t = \log C / 2 \times \log r$$

但し、t：分裂年代（単位：千年）

C：残存率      r：平均保持率（基礎語彙100語の場合 r=0.86）  
を提案し注目された。

基礎語彙も当初の215語から、200語、100語と改良されてきた。[14]

### 5.1 服部四郎の基礎語彙比較

我が国では服部四郎が基礎語彙100語に基づいて「水深測量」と称して、我が国周辺の18言語と日本語との比較を試みておられ、結果は次のようである。（表1.）上記の分離年代についてはスワディッシュの式を適用したが、服部は r の値を変えて算出しておられる。[9]

上記の結果、日本語に近いのはアイヌ語、朝鮮語であるが、蒙古語、満州語などとの差も少なく、判定によっては値が大きく異なる。また語彙によってはどの言語も偶然の一致を除外できない。

表 1. 服部四郎の「水深測量」の比較結果から（日本語との基礎語彙100語比較）

語族名	アルタイ語族						シナ・チベット語族					
語派名												
言語名	朝鮮語	満州語	蒙古語	タール語	キリヤク語	アイヌ語	シナ語	チベット語	タイ語	ベトナム語	カンボジア語	
判定結果○	18	15	16	14	9	22	14	7	3	7	5	
判定結果△	13	3	3	2	2	5	7	11	7	7	7	
残存率1 ○	0.194	0.15	0.16	0.14	0.09	0.22	0.14	0.07	0.03	0.07	0.05	
残存率2 ○+△	0.333	0.18	0.19	0.16	0.11	0.27	0.21	0.18	0.1	0.14	0.12	
分離年代(千年)	5.4~3.6						5.1~4.4					

南島諸語 (AN) 語族						
インドネシア語派		台湾語	メラネシア諸語			ポリネシア語派
マライ語	タカログ語		モトウ語	中央カロリン語	ボグウ語	サモア語
5	4	10	7	4	12	6
7	9	5	1	5		4
0.05	0.04	0.1	0.08	0.04	0.12	0.06
0.12	0.13	0.15	0.09	0.09		0.1

### 5.2 アイヌ語と日本語、南島諸語との比較

前述したようにロゼッタストーンの「学問の部屋」[7]のデータに、下表に示すように「その他の言語」、「関連アイヌ語」、「アイヌ語に対する評価」の各欄を追加して、さらに関連語彙を追加してみた。（関連語彙は文献 [7] へ、[9] ~ [13]、[20]、[21] から探し追加し、アイヌ語彙は [15] ~ [19] から探した。）

語彙比較は古代日本語、AN祖語、インドネシア・フィリピン言語、その他言語（メラネシア、ポリネシア諸語、台湾諸語など）およびアイヌ語間で類型系統分けを行って比較して、系統分けした関連語彙を、分離子（:又は/）に

記号 ★、◆、● を使い分類した。

評価の根拠を（……）>……などの変移推定で示した。\*印は復元祖語を示す。音声記号はここでは印字フォントとの整合性を考えて次のように置き換えた。ə→e、γ→R、η→N、?→'（声門閉鎖音（グロータルストップ））

表中の言語名略称は表10。言語系統と言語名略称を参照。

以下は、アイヌ語と日本語との基本単語語彙としての同源・同系問題とその分離年代をスワディッシュの言語年代学における基礎語彙100語から見てみることを目的とする。

(1) 文法的要素 (No.1~8) から

表 2. 文法的要素の言語比較

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語		アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者	日本語	AN		
1	I 私	★ア ★ナ	★aku' ◆ku	★aku	比ILC★si-aku' 比TAG★ako' 比KAG★a 比MNB★a イBAT/ROT: ★au イMLY★aku イJAV★kula グCMR:yo/◆hu	台TSO★ako 台ATY◆ku?◆si? ◆saku?◆kuZing 台SDQ◆ya'ku? 台BNN★ja'ku メBOG◆ad'ii メYAP★ae ボTON★au	AN ○ △	ALTI MO/TU:b MO:na	★a-(-an/-an) ①一人称単数/複数の主格 ②一人称複数包括形 ③二人称単数複数の敬称主格 ④一般称(人は…等) ◆ku- 一人称単数主格 ◆chi- ①一人称単数/複数の主格 ②一人称複数対立形、主格 ③一般称 ④自動詞的な意味に変える (si-と同じ、自ら…) ◆echi-①一人称単数/複数の主語 ②二人称単数/複数の主格、目的格	○ a/na ○ a/ku ○ ku<*ku chi/echi <*ad'ii	○ a/ku ○ ku<*ku chi/echi <*ad'ii	
2	you あなた	★ナ	◆i-kaSu ◆i-Su'	kav	比ILC:sika' イMLY:engkaw /kamu イJAV:sira グCMR:hago	台ATY◆isu? 台SDQ◆?i'su? 台PWN◆ti-hun メBOG★nam	ALTI si	ALTI	★a- e-:汝(が、の、に、を) ◆i- ①一人称目的格(単/複数) ②二人称敬目目的格 ③三人称主格/目的格	△ a	- △ i	
3	we 我々	★ワ	◆kita	◆kita	比ILC:kami' 比CMR:hita イMLY:kami/kit	台ATY◆ita? 台SDQ◆^ita? 台TSO★a'to	ALTI TU:bua	ALTI MO:ban TU:bua	◆chi- ★a-	○ wa <(u-)a	○ chi <*kita	
4	this これ	★コ(ko)	◆i-ni' qa-ni'	◆ini	比ILC:daytoy イMLY★iko イJQAV◆iki	台ATY◆qani ◆hani 台TSO◆e'ni	ALTI kü	ALTI	★ko-:そこ(に、へ等) それを、に、のために ta そこ ◆i- si :自分の/本当の	○ コ、ソ、アソ のko	- ○ i<*i-ni	
5	that あれ	ソ(so <sub>2</sub> )	◆i-tu	◆ijan	比ILC★si-anuh 比KAG:sa'ya イJAV◆ika	台YAM:◆?u'itu イMLY◆itu	△	△	◆i- ★sian:本当の	- ○ i<*i-tu △ sian △ si-anuh	○ i<*i-tu △ sian △ si-anuh	
6	who だれ	◆ターレ ◆タ	i-sai	◆t'aji	PHN★si-anuh 比ILC★si'no イMLY:mana グCMR◆haye	台TSO★si'a 台BNN★si'ma? 台YAM★sinu? メMOT◆daika メBOG◆da2	△	△	hunna:誰 nen:だれでも ★sino:本当の	- -	○ sino <si'no <*t'aji	
7	what 何	★ナニ	apa	apa	比ILC★ania' 比TAG★ano' ★na:nuh★anni イMLY★anu グCMR:hafa	日OKI★nu?<an 日YAE★nō?<an 台ATY★nanu? 台SDQ★ma'nu?	AN ○ ○	○	★ne:(疑問詞)どうである ★nen:どうである人、誰 nep:どうであるもの、何 ne-i:どうである所、何処 hita:何 hitane:何しに hunta:何	△ na/nani /ne/nen	△	
8	not *でなし ◆イナ	～ズ ◆イナ	qazi diaq	d.i	比TAG◆hindi 比ILC:saa'n/di- イMLY◆tidak		AN ○ △	△	isam:(否定動詞)ない sak:欠く somo: *でなし(対象の語の前に置く)	- -	- -	

アイヌ語と日本語、アイヌ語と南島諸語との関連につき、紙面制限の都合上、同源判定項目のみその採用理由を述べる。

- ・No.1 日本語 ア は南島祖語 \*aku からと考えられる。(フィリピン諸語などから) アイヌ語 ku は南島祖語に同じであり \*aku から分かれた a/ku 双方が使われている。アイヌ語では一人称、二人称、単数、複数、などの概念がかなり曖昧である。(日本語も同じ)
- ・No.2 二人称 アナタ に対する日本語とアイヌ語 ナ/a は同源かどうか。
- ・No.3 一人称複数 ワ はアイヌ合成語 (u-a:お

互いの我)に通じる。また、\*kita から幹収縮形のki→chi(沖縄語の音韻に同じ)を想定した。

- ・No.4/5 指示代名詞 ココ、ソコ、アソコ の「コ」は近/中/遠距離感が未分化のアイヌ語 koに通じる。コレ、ソレ、アレ に相当する i も同じく未分化のようである。
- ・No.6 人称疑問詞ではないが、アイヌ語 sino: 本当の とフィリピン諸語の si-anuh/si'no と同源と見た。
- ・いずれも南島諸語に関連がありそうで、特に台湾諸語に多く痕跡を残しているように思える。

(2) 基礎語彙 (No.9~18) から

- ・No.9 古語の ピタ は ピタリ、ピッタシ 等にも残りアイヌ語 epitta/opitta の語幹 pitta

と意味的にも同じで、同源であろう。pita >ミナ mina も想定できるかどうか。



- ・No.10/13 多シ、大シ は同源で、南島祖語 ompo:祖先 から出たものと言われている。アイヌ語 o/ot:ごちゃごちゃある はこの幹収縮形と判定した。
- ・No.11 数詞古語 イト、ピタ とアイヌ語 sine はこのままでは同源と思われないが、南島祖語 \*it'a/\*pit'an とジャワ語 sidji との関係は同源を示唆しているのでは、と考えた。
- ・No.12 数詞古語 プタ、パタ の対応南島祖語 D.uva'/pa'taN とアイヌ語 tu/u (祖語からの幹収縮形) とそれぞれに意味、音韻対応して

いるようである。

- ・No.14 タガログ語 tagal から ナガ (シ) (n)、tan (tar>tan) が生じたのでは、と判断。
- ・No.15/17/18 古語 チビ、ヲ、ピトはいずれも南島諸語との関係は濃厚であるが、アイヌ語には見あたらない。
- ・No.16 南東祖語\*m-binaj を介して、アイヌ語 mina:笑う と mat/ (日本語:メ) はその幹収縮形ではないだろうか。
- ・この範囲は日本語もアイヌ語も南島諸語、台湾諸語に強く関連している語彙群に思われる。

表 3.基礎語彙の言語比較

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
9	all すべて	ミナ mi2na <miu-na *ヒタ<ピタ	lahat	◆abin	比ILK:a'min イMLY:ampu ITAG★pisan :合一	台ATY◆kuara? 台SDQ◆ka'na? 台YAM◆maleve't 台PWN★?i'ta' /*?isa'?	△	△	◆ar:まったく ★epitta:すべて(量) ★opitta:すべて(数)	-	△ ar<*abin △<*pit'an hita<(e/o-)pitta
10	many 多い	オオシ ★opo-si	dameq	-	比TAG:dami イMLY:murah		△		★o:多くある ★ot:ごちゃごちゃある at:ごちゃごちゃある us:群生する oka(y):多くある poro:大きい/多い	○ opo/o	-
11	one いち	イト ★ito2 ヒトツ <pito2-tu ◆ピッタシ ★イタ	★it'a	★it'a ◆pit'an	イMLY:satu イJAV★sidji	台TSO◆cini/c メCAL.öt	AN ○ ○	○	●sine:いち	△ ito/sine	○ sine<cini /sidji
					比TAG★isa' /◆pisan	台PWN★'ita'			◆epitta:すべて(量) ◆opitta:すべて(数)	○ pito<pita	○ pita<pit'an /pisan
12	two 二	フタツ ★puta-tu ハタ(二十) pata	★DewSSa? ◆pat'aN (対)	★DewSS ◆pat'aN (対)	比ILC★dua' イMLY:belah 比ILC◆pa'sang イMLY◆pasaN	台ATY★rusa? /sazing 台SDQ:daha? 台PWN★rusa?	AN ○ ○	○	★tu:二 ★u:お互い	○ pu/pa<tu	○ tu<dua <*duva
13	big 大きい	フシ ★puto-si オホ(大) opo-si	(ma)+Raya	★bot'al	比ILC★busso'g イMLY★betong 比TAG★buso'g イMLY★besar	台SDQ★pa'ru? 台ATY:hupa? メBOG★boro	AN ○ ○	○	★poro:大きい/多い ★rupne:大きい<rup-ne:頭のような ★par:川口/para:広い ★put-o:川口	○ puto<por	○ poro <*botal
14	long 長い	ナガシ naga-si	★anaduq	★and'a lavat'	比TAG★tagal ★ma+taga' イMLY★and'aN	台PWN★matangela'?	AN ○ ○	○	★tanne:長い	○ naga <tagal	○ tan(ne) <tagal
15	small 小さい	チイサシ ★tipisa-si ニヒ ◆nipi	★ddkiq ◆ma/nip'i's	★d.ikih ◆nipit' ★tipit'(薄い)	比TAG★tipi'k イMLY★tipis イJAV★chilik	台SDQ★tipix	AN ○ ○	○	po:子供 pon:小さい/少ない mo:小さい <po nokan:小粒の	-	-
16	womar 女	メ ★me ミナ ★wo-mina ハハ ●papa	●ba ★binai	★binaj	比TAG●baba'i イMLY★bini /perempuan	台ami: ●fafahi^a' 台PWN: ★mina'w'ao	AN ○ ○	○	★mat:女/妻 menoko:女<<日本語 ★mina:笑う ●hapo:お母さん	○ me/mat <mina (意味のずれ) ○ papa /hapo	○ mat <mina <*m-binaj △
17	man 男	★ヲトコ wo2no2ko2 take2	lala:ki	laki ★uRaN	比TAG:lala'ki イMLT★oraN イBAT★uraN: イJAV★woN	台PWN:uqalai /★ohayai	AN ○ ○	○	kur:人/影/神 ★hoku:夫 ainu:人/男 nispā:旦那	-	-
18	person 人	★ヒト pito2 <pi-tau	Ca'u	uRaN ★[t]av	比TAG★ta'o/ta イMLT:oraN /prinumi:住民	台TSO★co'u 台PWN★tau 台YAM★tau	AN ○ ○	○	(同上)	-	-

(3) 動物・植物関連 (No.19~36) から

表 4. 動物・植物関係の言語比較

No.	基礎語 日本語	AN祖語		インドネシア・ フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
		CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
19	fish 魚	サカーナ ★イ(ウ)ヲ ◆イカ	Si-ka''en ◆ikan ★ivak	比TAG:isda' イJAV★iwa' 比ILC◆ika'n	台PWN◆ci'qau メCAL◆ik ポSAM★i'a	AN ○ uwo/iwo <★ivak	○	chep:食物;魚;鮭 <chi-e-p:我らが食 ★i-:それ(神/獲物) ★i-o:獲物が多い	○ iwo=i-c ○ i'ik <i'ikan	○ <i'ikan
20	bird 鳥	★トリ メ? スズメ カモメ等	manu'k manuk buluN	比IVT: manumanuk IMLY:burung /burong		- △ ALT KOR: terk:鳥 turumi:鶴	○	chir:鳥 chicap:鳥 ★tori:鳥 amam-e-chicap-po:スズメ kapiw:カモメ kopecha:カモ	○ tori	-
21	dog 犬	◆イヌ ●ヲソ	★asu qa'yam	比TAG◆aso イJAV◆asu IMLY:anjing 比CEB:idu/irc	台AMI◆wotso 台YAM◆?inu? 台PWN★vat' 台TSO★tatsau	ALT ○ アMAN: ◆ inhun seta<tatsau	○	★seta:犬 reye-p:這う物、犬 ◆inun:漁に出かけ滞在する (i-nu-un :そこで豊漁がある)	-	○ seta <tatsau (マターゼ) ○ - inun<inun
22	louse 虱	★シラミ (合成語)	◆Cu'ma tumah ◆kutu	比TAG◆kuto イJAV◆kutu' IMLY◆kutu'	ホFIJ◆kutu' MP★*lisa /**liza 台ATY:lu'mi	-	-	◆ki/kiye:シラミ、昆虫、茅の ★rasi:虱(カラフト語 /★tasi	-	○ rasi<lisa ki<kit<kuti <kutu
23	tree 木	★キ ki <sub>2</sub> <*ko <sub>2</sub> i	ka'Siw ka'yuh ◆kayu ◆kahui	比TAG: ◆kahoy(wood PHN★*niyup :ヤシの木	台SDQ★kahor 台ATY★kahu' 台AMI◆kikaN IMLY◆kaju	AN ○ kii/kō <*kōi ◆ka'yuH	○	★ni/niye:木;林;森 ◆ki/kiye: 禾本科草本の茎:稈;茅	-	○ ni <*niyap △
24	seed 種	タネ ★tane <tana?	benSiq suan denih ★tanem (plant)	比TAG:binhi? ★tani'm (plant) イJAV:deder IMLY◆sari:核心	ポSAM◆saito 日OKI◆sani	AN ○ <★tanem	○	pi:①石②小球③種子 tanne:長い	-	-
25	leaf 葉	◆ハ <paa	d2ahun bulu'N ★dahun ◆papah	PHN★dahon 比TAG: ◆pa'lapa' イJAV◆papah	台AMI◆papah 台PWN◆hapa 台TSO★he'nge メBOG:bagri	AN ○ <*papah	○	★ham:葉 ◆hap:梢	○ happa <hap	○ ham <★dahun hap   <*papah
26	root 根	ネ ne ヲ ★wo	★uRanN daliy [v]jaka paNkal	PHN:uga't IMLY★urat	台AMI:jamit	AN ○ *uRanN >ua'n>wo	○	sinrit:①根②イケマ ③祖先……合成語 ★o:①尻②陰部③川尻	○ *uRanN >ua'n >wo	○
27	bark 樹皮	ハダ ◆pada カワ★kap	ku'liC balulaN ◆padabalulaN	比TAG◆bala't IMLY:kulit	台ATY:iulaq 台PWN:qa'lic ◆bake'le	-	△	★kap:皮★ni-kap:木 tonto:なめし皮 rus::毛皮;衣	○ kapa<kap	△
28	skin 皮膚	(同上)	(同上)	-	メMOT★kopi 台TSO★ka'va	-	-	(同上)	○ kapa<kap	△
29	meat /flesh	★シシ	★Sisi Sesi dagiN ★isip(?)	グCHR★sensen イJAV/MLY: ★ isi:内容	台AMI★titi MP★*ti'	AN ○ sisi <★-iti	○	kam:肉 haru:食料	-	-
30	blood 血	チ ★★tui cf. ツユ	da'ha d.aRah ★ZuRu'q	比TAG:dugo''	メCAL★tja ポSAM:toto	AN △ ZuRu'q >duu'>tuu	△	kem:血;針;飢饉	-	-
31	bone 骨	ホネpone	du'RiH Cuqelan zu'Ri [t]ulang	比TAG:buto' イJAV:balung MP◆*likud:背 (TAG◆likod)	台BNN◆iku	-	?	kew:骨;死体 pone:骨<(日本語) ◆kir:足;骨髓 ◆ik:関節	-	○ kir<likud マターゼ ○ik<iku <likud
32	grease 脂	アブラ ◆ambura ◆tabe''	min'ak men'ak ◆tabe''	比TAG◆taba' IMLY◆rabun(あぶる)		AN ○ <*apuy (アブル)	○	kirpu:脂(身) kis:水中に浮いた油 ◆uhuy/ape	○ abu<apuy /uhuy	-
33	egg 卵	タマゴ (合成語)	telu'R [t]eluR	比TAG◆itlog		-	-	◆nok:①卵②睾丸	-	-
34	horn 角(ツノ)	ツノ ★tuno/tunu	uReN ta(n)duk ★t'uNu	比TAG★sungo't IMLY★suNu /tandok	台TSO★suNu 台KAN★uuNu	AN ○ <★'uNu	○	kiraw:角<kir-aw:骨・枝	-	-
35	tail 尾	★ヲ	l'kuR buntut ikuR	比TAG:bunto't IMLY:ekor	メBOG★orū	-	×	★o:①尻②陰部③川 ★os:①中②後③雌魚	○ wo/o	-
36	feather 羽	ハネ ★pane ◆foro	★pa'niy ◆bulu	比TAG◆bulo IMLY◆bulu /kepak	台AMI★vanoh 台BNN★pulau 台SDQ★pa'lit	AN ○ <*pani <★bulu	○	★rap:羽;翼	△ rapはpan(e) からのマターゼ	△

- ・No.19 古語 イヲ、イカ とアイヌ語 i-i-o は南島諸語を介して同源に思える。
- ・No.20 鳥、トリはアイヌ語古語でもあり、朝鮮語 terk と同源と思われる。
- ・No.21 犬はアルタイ形と見られているがアイヌ語 inun:漁に出て滞在する と同源であろう。しかしアイヌ語 seta は台湾ツォウ語の tatsau のメタテーゼ形であり、古語 ヲソ は、タガログ語 aso と同源と見られる。
- ・No.22 カラフトアイヌ語 rasi はマライポリネシア祖語\**lisa* のメタテーゼ形と言われている。シラ(ミ)はこのアイヌ語 rasi からのメタテーゼ形になっている。
- ・No.23 アイヌ語 *niki* とも南島語からの幹収縮形であろう。アイヌ語の *ki*:茅などは意味は少しずれているが。
- ・No.25 アイヌ語 *ham,hap* とも南島諸語からの幹収縮形とみられるが、日本語 葉 もそれ

- から語末尾子音のとれた形になっている。
- ・No.26 日本語 ヲ は南島祖語\**uRan'*からの幹収縮形と見られているが、アイヌ語 *o* も同じであろう。また、No.36にも同じ。
- ・No.27/28 日本語 皮(くカバ)とアイヌ語 *kap* は同源と見られる。台湾パイワン系ルカイ語 *bake'le* から、その幹収縮形 *bak* のメタテーゼ形と思われるが判定はしなかった。また、台湾ツォウ語 *ka'va* も同源に思えるが判定はしなかった。
- ・No.31 アイヌ語 *ik* はマライポリネシア祖語\**likud* の幹収縮形、*kir* はメタテーゼ形であろう。
- ・No.32 アブラ は アブ・ル と同源の 燃える/火 に対するアイヌ語 *uhuy/ape* と同源に思える。
- ・この範囲のことはも南島諸語、台湾諸語に関連しているものが多いようである。

(4) 身体語関係 (No.37~53) について

- ・No.41 鼻の古語 パナ はアイヌ語 *pana* と同じであるが、意味はずれている。南島祖語の\**paNa*:突出物 から地名用語としての岬、出崎の意味では共通であろう。
- ・No.42 クチ、クビ、クツなど、アイヌ語 *kut* と共通に「中空のもの」を指す。
- ・No.45 日本語 歯 はアイヌ語 *ni* とは別系統であるが、*ni* は南島諸語\**Ni'pen* の幹収縮形で、別意味の語 *ni*:木 (No.23) といっしょになったものようである。
- ・No.46 日本語 足 はアイヌ語では *as-i*:立つもの であり、同源であろう。アイヌ語 *chikir* はフィリピン諸語 \**tigel*

- から と音、意味とも一致する。
- ・No.49 アイヌ語 *rekut* は南島祖語\**li'qeR* からと考えられ、これの派生したタガログ語 *ku'pi*:窪み と、クビ とが関連するようである。
- ・No.50 タガログ語 *palad'* が ハラ と *par/para* とに關係しているようである。
- ・No.52 日本語 タマシイ は、鹿児島弁ではタマツ であり、アイヌ語 *ramat*:心 と同じである。「タナラ相通の理」と呼ばれる、*t.n.r* 間の変移はよく見られ *r>t* 変移の例である。
- ・この範囲も大部分が南島諸語、台湾諸語に関連しているようである。

表 5-1.身体語関係の言語比較 (1/2)

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
37	hair 毛	◆ケ ké	★buSe'k	★bulu	比TAG: ★buho'k IMLY★bulu	日KAG: ★folo:羽毛	×	△ 「木」に対応	numa:毛;毛皮 ◆ki:禾本科草本の茎;稈;茅	△	-
38	head 頭	コウベ ◆kabu-pe ★ウツ	qu'luH ?	★hulu ◆ke(m)buN	比TAG:u'lo:頭 比TAG◆kabong IMLY★hulu	台SDQ:qeipau' 台PWN:oEno	-	○ 「膨れる」 に対応	pa/pake/sapa:頭 key:頭 rum:頭 e-:頭:顔 ◆tap-kop:タンコブ	-	△ kabu/kop
39	ear 耳	◆ミミ	★taNi'la :耳 ◆bi+biR :唇	★taliNa' :耳	比TAG★tainge IMLY:kuping 比TAG◆bibi'g:口 IMLY◆bibir	TWN: ★tsaliNa 台PWW★calinga	AN ○ mimi <*bibiR	○ 「唇」に対応 「耳垂」 「ミナリ」に対応	★kisar:耳	-	△ kisar <tsaliNa <*taliNa'



表 5-2. 身体語関係の言語比較 (2/2)

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
40	eye 目	◆メ mé マ(ナコ) ma	◆maCa'	◆mata'	比TAG◆mata IMLY◆mata	TWN◆matsa MOT◆mata ボSAM◆mata ×CAL◆mas:顔	AN ○ ma-	△ 「マナコ」 「マツゲ」 /聞く/持つ mata:冬 関係	sik:目 nu:①豊漁②温泉③目 mata:冬	-	-
41	nose 鼻	★ハナ pana	i+ju'N	ig'uN ★paNa :突出物	比TAG:ilo'ng /★panga':顎 IMLY:puncha :先端	×CAL:puot ×BOG★mana 台ATY:nguhuu 台PWW◆not	AN ○ <panga'	○	etu:鼻 <e+tu:顔・峰 ◆not:顎 ★pana:川下/塵 (「鼻垂」を連想)	○ hana<pana	-
42	mouth 口	★クチ	bap+bap	★mulut bibi'R	比TAG:bibi'g PHN: ◆Nutu:口;嘴 IMLY◆mult	ボSAM★gutu 台ATY◆nquaq 台YAM◆ngusu? 台PWW◆not	高麗語: ko-tsii	×	★put/put.i:(川や沼の) =par, char ★kut/kut.i:①岩崖;絶壁②岩 ③中空の莖④帯 kut-char:沼からの出口;首 ◆not:顎	○ kuti <puti △ kut <Nutu ○ not <Nutu	-
43	tongue 舌	★シタ	★di'laq	★dilah	比TAG★di'la IMLY★lidah	台YAM★li'la 台AMI★sima 日OKI★siba 日YAE★si'pa	AN ○ sita <*dilah	○	parunpe:舌 合成語 ★ra:①低い所②魚の腹 ③地下植物の葉④粘液	△ sita<sira <*dilah △ ra<sira <*dilah	△
44	claw 爪	◆ツメ カ(搔)ク	kuS+kuS	kuku	比TAG:kuko' イJAV◆d'uput /◆d'umput	台KAN★anuk 台ATY★kaka'n	AN ○ tumë/tuma <*d'umpa	○	★am:爪	-	△
45	tooth 歯	◆ハ kpa	★Ni'pen ◆i'p?n	◆i'pen	比ILK:★ngi'pen 比TAG◆baga'ng :臼歯 IMLY:gigi	台AMI◆wadis 台PWN◆vaqapa 台ATY★nux 台BNN★ni'pu ki<*gigi	AN ○ <*babaN	○	★ni/niye:①木②歯 ★ni-mak/mimak:歯	-	○ ni <n-i'pen
46	foot 足	●ハギ ◆カチ ★アシ	◆pa'qaS	◆kaki'	比TAG◆paa' PHN◆tiqel /◆tiqil IMLY◆kaki	台PWN◆tilit /karapka'pan セブ◆tiqil	AN ○ <*gigi	○	kema:足 ikema:e:イケマの根 ◆chin:脚 ◆kir/chikir:足;骨髄 ure:足 ★as-i:立つもの	-	△ chikir <tiqel ○ asi
47	Knee 膝	ヒザ	tuhud	[t]u'ud	比TAG:tuhod IMLY:lutut	台ATY:tari? 台PWN:cu'ngar	×	×	kokka:膝	-	-
48	hand 手	★テ ★タ(被服形) ◆モム	lima	lima ★taNan	比TAGkama'y ★tanga'n:掴む IMLY★tangan	台PWN:rima?	AN ○ ta-<*tana <*ta?a	○	★tek:手;枝 ◆mon:手	○ te<tek momu <mon	-
49	neck 首	◆クビ	★li'qeR	★lihiR	比TAG:lee'g:首 ◆ku'pi':窪み ◆ku'pi's:<びれ	台PWN: ★ri'qer ×BOG:ko	-	○ ku'pi' ku'pi's	★rekut/requt.i:喉;首 kutcharo: kut(喉)+charo(口)	○ kubi <rekut.i	○ rekut <li'qeR
50	belly 臍	ヘソ ◆peso ハラ ★para	◆pu'sej	/t/iyan ★palad' :手のひら	比TAG◆pu'sod IMLY:prut(ハラ) /◆pusat(へり) 比TAG★palad'	台KAN◆pele'ke 台YAM◆peSe' 台BNN◆pu'soh ×MOT:boka	AN ○ pötsö <*pu'sej <palad'	○	◆hanku:臍 ★para:広い ★par:川	△ para/par <rekut.i	△ par/para <palad'
51	breasts 胸	◆チチ	◆su'su	◆t'ut'u :乳房	比TAG◆su'so IMLY◆susu /◆titik/◆tetel	×CAL◆tüt 台PWN◆tutu /◆toto'?	AN ○ ti <*t'ut'u	○	ram:胸;心 ◆to/totto:乳房;母 ◆rerara:胸板(サハリ)	△ <to	△ totto <*t'ut'u
52	hearts 心	◆ココロ ★タマシ ハラ・ワタ	pu'suq	put'uh	比TAG:pu'so? /◆kuro(観念) IMLY:pokok	台ATY: lahubu'n 日KAG★tamat	ALTAI kukuru bakta	×	★ram:胸;心 sampe:心;心臓 ★ramat:魂	○ <to	- 魂とramat KAG:tamat
53	liver 肝	キモ	qaCe'y	hataj	比TAG:ata'y IMLY:limpah		-	×	huype:肝臓 yukram:肺臓	-	-

(5) 基本動詞 (No.54~71) について

- No.54 日本語 飲む は、アイヌ語 nun:吸うと意味はややずれるが、南島祖語\*inum からどちらも生じたものであろう。
- No.55 咬ム はアイヌ語合成語 ka-mu:上方を塞ぐ に一致。アイヌ語 kupa のメタテゼ形とも考えられる。(kamu<kapu<kupa)
- No.59 アイヌ語 kir は南島祖語\*kilala の幹収縮形、日本語 知る、シリ はアイヌ語 sir/siri と少し意味がずれるが同源であらう。
- No.61 アイヌ語 ray はインドネシア祖語 \*layu からで、ナユ(nayu)と同源であらう。
- No.63 アイヌ語 ma:泳ぐ はジャワ語 manu、または台湾ツォウ語 maka などの幹収縮形であらう。
- No.65 日本語 歩く は、アイヌ語 arpa,arki とも音と意味的にもほぼ合うが、南島祖語 \*laku' のメタテゼ形になっている。
- No.68 アイヌ語 rok は南島祖語 \*duk、

台湾アミ語 marok などからであろう。

収縮形、タツは ta-ta)tatu の変化か。

・No.69 アイヌ語 ta はタガログ語 ta'yo の幹

・No.71 アイヌ語 ye とイ(フ)は同源であろう。

表 6.基本動詞の言語比較

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
54	drink 飲む	ノム *nōmu	*inu'm	*inum	比TAG★i'nom 比ILK★inu'm IMLY★m-inun	台AMI★minanon 台YAM★minum メMOT★inua メCAL★un ボSAM★inu	AN ○ <*inu'm	○	ku:飲む ★num/numun:吸う	○ nomu <numun <*inum	○ num <*inum
55	eat 食べる	クフ kupu ◆ケ:食物	◆ka'en ka'n	◆ka'i ◆ka'en	比TAG◆ka'in IMLY◆ma-ka 比ILK◆kaa'n	台AMI:mima'n 日OKI:kanuN	AN ○ kē:植物 kē<*kai	○	ipe:①食事する②食事③魚 ◆e:食う	○ △ ke/e <*kai	△ e<ai <*kai
56	bite 咬む	★カム ハム	*kaRa't kat	*kaRat	比TAG★kaga't 比ILK★kaga't	台ATY★kumat メCAL◆gu 日OKI◆kuujuN	-	○	◆kuy:咬む ★kupa/kupapa:咬む:かじる kep:かじる ★ka+mu:上方を塞く	○ kamu< ka+mu	△ kupa <kag'at
57	hear 聞く	キク キココ	d <sub>3</sub> iNe'R ★NeR	*deNeR	比TAG★dinig /*kin'g 比ILK★nge'g	台ATY★mung メCAL:roN	-	不明	★nu/i-nu:聞く kokanu:聞く	-	△ nu <nge'g
58	see 見る	★ミル	◆kita'	◆kita'	比TAG◆kita' IMLY:tampik	台AMI★miniNniN /minene'ng 台ATY★mita? 台YAM◆ki'ta?	AN ○ mata:目 から派生	○	inkar:見る;見張る nukar:見る;見張る masasa:見る ◆kirkiru:よく見る ◆kir:知っている	-	△ kir <*kita
59	know 知る	◆シル 物を知る ★kilala 人を知る	ma/taqu' tahu' ★kilala 人を知る	tahu'	比TAG◆a'lam /*kila'la IMLY★kilala 比SAM★kilala/kila	台SDQ★m-kil 台PWN◆kemla'ng /malaZam	ALTI	ALTI	★kir:知っている chanup:知る:覚える ◆ramu:思う ◆a-ram: ◆sir:あたり一面/領有する	○ siru<sir sir/kir	○ kir <kilala aram <a'lam
60	sleep 寝る	★ネル ◆マドロム	tu' d <sub>2</sub> uR ★ingp	tid.uR ★ingp	比TAG:tu'log IMLY★inap :宿泊する	台PWN★ma-ingp 台BNN◆matodon	AN ○	○	hotke:寝る ◆mokor:眠る	△	△
61	die 死ぬ	◆ハテル ★ナユ	maCe'y pataj mataj	◆pataj mataj	比TAG:mata'y /◆pataj MP★layu:萎れる IMLY:mati	台AMI◆mapata' 台BNN★ma'ta'i	AN ○ patē <*pataj	○	★ray:死ぬ isam:なくなる	-	○ ray <layu/*tai
62	kill 殺す	コロス	paCe'y	*bunuh	比TAG:pata'y-i IMLY★bunoh	台AMI:mipata'i	-	AN △ ALTI の 可能性	rayke:殺す ★ronnu:沢山殺す	-	△ ronnu <*unun <*bunun
63	swim 泳ぐ	オヨグ	◆laNuy ◆naNu'y	◆laNuj	比TAG◆langoy I JAV◆manu/la I BAT◆laNe IMLY◆renang	台TSO◆maka 台TWN◆laNui 台KAN: ◆makanangu'ru	AN ○ ma<manu <nanu<*laNuy	ALTI	sus:泳ぐ;水浴する ◆ma:①泳ぐ②泳る	-	○ ma<manu <*laNuy
64	fly 飛ぶ	トブ	◆le(m)pa d <sub>2</sub> ◆le(m)ba	◆le(m)ba	比TAG◆lipa'd IMLY◆mulaka?	台ATY◆mulaka? 台PWN◆mirra'yap 台YAM◆Semalap	AN ○	○	hopuni:①起きる②飛ぶ hopunpa:(同上) terke:跳ぶ ◆rap:群で下る/翼	-	△
65	walk 歩く	アユム ★アル(リ)	*la'kad laka'w	*laku'	比TAG★la'kad IMLY★jalan	台AMI★remakat 台ATY★mahkaki	-	AN △	apkas:歩く omanam:歩き回る ★arpa:(山の方へ)行く ★arki:来る(複数形)	○ aruku< arpa/arki	△ arki <la'kad <laku'
66	come 来る	★クル	◆ari ◆(m)+aRi	◆ateN	比TAG◆hali /◆dati'ng I JAV◆teka	メBOG:ginar	-	ALTI △	★ek:来る ◆arki:来る(複数形) ◆tak:持つてくる;呼びこく	△ ku/ek	△ arki <*ari tak <*dateN
67	lie (recline) 横たわる	★イヌ 横たわる ★ネ(ム)ル	baRiq bali	*ingp	比TAGhiga? /*panagi'nip IMLY:tidur	メCAL★rone 台ATY: ninraomul 台AMI:mawaka'ng	AN ○	○	ekopas:寄りかかっている samatki:横たわっている hotke:寝る	-	-
68	sit 座る	中居る スワル スエル	tubaN ★d <sub>2</sub> uk+d <sub>2</sub> uk	★duk+d <sub>2</sub> uk	比TAG★dukmo' /*luklok IMLY ★dukuk/dodok	台AMI★marok MEL★lako/roko :屈む	-	ALTI 「居る」 AN ○ 「据える」	a:座っている ★rok:(群れをなして)座る	-	○ rok <(ma)rok <*duk
69	stand 立つ	★タツ	tuqud <sub>2</sub> d <sub>2</sub> iRi	*d <sub>2</sub> eNd <sub>2</sub> g ◆diRi	グCHR★ta'cho 比TAGtayo? I BAT★d <sub>2</sub> eNd <sub>2</sub> g IMLY◆iri	台TSO◆muasiri 台PWN◆mirin'i? ボSAM★tu2 ボJ★tu	-	○	roski:覚える;立つ(複数) as:①立つ②群在する hopuni:①起きる②飛ぶ ★ta:打つ;絶つ;切る	○ tatu <ta-ta	○ ta<tata <*d <sub>2</sub> eNd <sub>2</sub> g
70	give 与える	★アタフ	◆Sa-(n) te'd <sub>2</sub> be'Ra'y	◆be'Raj	PH-IN★hataG 比TAGhanda'g IMLY★dadar	台BNN★masa'iv	-	○	tekehe-omare:手渡す ◆san:①涙が出る ②前が出る/ある	-	△
71	say 言う	ノル ノブ ◆イフ	tutur Si-up	t'aut t'ebut	比TAG:sa'bi IMLY:sebut	メCAL:lura 台YAM◆ipanji'?	AN ○	△	◆ye:言う itak:①物言う②言葉 uepeker:語る	○ ifu/ye	-

## (6) 自然関係 (No. 72~86) について

表 7. 自然関係の言語比較

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
72	sun 日	ヒ pi/piru アサ ★asa	pa-(n)jaw	ha(N)-g'av ◆t'iNaR :光	比TAG:a'raw 台PWN★azaw 比TAG◆sinag イMLY◆sinar	台AMI◆tsidaR 日OKI◆tiid:太陽 日OKI◆sina:日 メMOT◆dina	ALTI AN △	chup:日;月 :腹(丸い物) ◆nisat:明け方	- ○ sina> nisat	- △ ◆*t'NaR	
73	moon 月	ツキ ◆tukī	bulaN	bulan	比TAG:buwar 比MNB: ◆tuker	台KAN:vua'n 台YAM:vu'a'n	不明	◆chup/chup,i	○ tuki /chup	△ chup ◆tuker	
74	star 星	ホシ ◆posi	bi-(n)tu'qen	bintaN	比TAG:bitu'wir イJAV:rasī グCHR:puti'o	台AMI◆vo'is メMOT◆hisiu メCAL:fu ボSAM:fetu メBOG:b'ain	ALTI ◆posin (7MAN)	nochiw:星影	-	-	
75	water 水	ミズ midu wi-do	★d2a+Nu'm ◆wa'hiR	★d[d.]anun ◆vajeR	比TAG:tu'big 比ILK◆wa'ig イMLY◆wari イMLY◆air/aj	台AMI★nanon 台PWN★zalum 台YAM★ranu'm ボFIJ◆wai	ALTI ◆mil(KOR) AN △ AN ○	pe:①水②川上 ◆wor/hor:水 ◆wakka;水 ★na:水?	-	△ wakka <wa'ig   <★wa'hiR na<★ddana	
76	rain 雨	アメ ◆ame2	quZa'N	udan ◆e(m)un	比TAG:udan /◆ambo'n イJAV:jawah	-	AN △	◆apto:雨 ap+to:枝 ruyanpe:雨;嵐 (合成語)	△ ame /anpe <★ambo'n	△ apto <★ambo'n	
77	stone 石	★イシ イソ iso イワ ipa	batu'	batu	比TAG:bato' イMLY:batu	台ATY★binga 台PWN★vitu'ar 台BNN★?binto'han	AN ○ AN ○	△★pi:①(小)石②小 ★pi-us-i →hisi ★pis:浜 KOG:★pisi iwa:岩(山)←i(e)waki:住处	○ isi<pi-usi	△	
78	sand 砂	スナ	qe nay benaqi	ket'ik pat'iR	比TAG:bua'Nin PHN:pasisir<pat'iR イMLY:pasir	台PWN◆?ena'i /◆hunaE	-	AN △	◆ota/uta:砂;砂 una/huna/uyna:灰 地名の◆イナ,ヨナ/ota/uta オタ(ノ)ダ、ウラと関係	○ イナ,ヨナ,ウナ,フナ	-
79	earth 地	ナ ツチ	tanaq	banu[v]a tanah	比TAG:u'lap 比ILK:ku'nem イJAV:siti イMLY:tanah	-	ALTI ALTI	sir:①地;太地② ④辺り一面⑤昼夜⑥天候 ⑦気温⑧風 toy:土	-	-	
80	cloud 雲	★クモ	quZa'N	ka(m)but 霧	比TAG:u'lap 比ILC: ★ku'nem	台ATY: ★ZaZu'lungt 台SDQ★ru'lung	-	AN △	nis/★niskur:雲 as:立つ;群在する	○kumo /kur </ku'nen	△ kur /ku'nen
81	smoke 煙	ケムリ ke2buri	★[t]u hat'ap	CapaH qe'bel	比TAG: ★aso/usok	台PWN★chatto /★ahto ボSAM★asu	不明 阿蘇山から AN ○	supuya:煙 ★as:立つ;群在する	△	△ as <a[t]u	
82	fire 火	ヒ ◆pii ホ ◆po	★Sapu'y	★apuy	比TAG◆apoy イMLY◆api	台TSO◆puzu 台SDQ◆puniq 台PWN★sa'pui 台TSO◆apoy /★apui	AN ○ AN ○	◆ape:火 ★uhuy:燃える	○ pii<apoy	○ ape <zapoy <★apuy	
83	ashes 灰	ハイ ◆papi スス	★qabu'H	★abu	比TAG★abo'	台ATY★?abuli 台YAM★?a'vu? 日★アブ(ル)	AN ○ AN ○	una/huna/uyna:灰 ◆pas/pas,i:消炭 upar:煤	○ hai <papi <pasi	-	
84	burn 燃える	◆モユ ★スス	tutuN	tun ★tutuN	比TAG:su'nog イACE★tutoN	台ATY◆msuling 台PWN◆muzi'k ボSAM◆mu	AN ○ AN ○	uhuy:燃える	△	○ uhuy <★apuy	
85	path 道	ミチ mi-ti	d'alan	Za'lan	比TAG:da'an	台ATY★tuqii 台PWNdya'ran /★varuru	-	AN △	★ru:①道;跡②便 ③頭髪	△	△
86	mountain 山	ヤマ yama	bulud	gunuN	比TAG:bundok イMLY:ganang	台ATY:rgiax /nana'hi? 台YAM:tuku'n	ALTI ALTI	nupri:山 kim(聳えない)山 iwa:岩山 tokom/tohom:小山	-	-	

- ・No.72 沖縄語 sina:日 とアイヌ語 nisa(t) はメタテゼ形である。台湾アミ語tsid'からの地理的な連続性を感じる。
- ・No.73 比マノボ語 tuker、日本語 tukī、アイヌ語 chup,i も地理的連続性を感じられる。
- ・No.77 イシ、イソ、イワ など合成語 pi-us-i :石が群在する からの派生語に思える。
- ・No.78 砂浜などの地名用語 イナ、ウナ、ヨナ はアイヌ語 ota,uta に重なる。
- ・No.80 日本語 雲、アイヌ語 nis-kur は比イロカノ語 ku'nem からの派生と思える。
- ・No.82 日本語 火 の古語祖語 (a)poy タガログ語に同じで南島祖語 \*apuy からの派生で、二重母音を許さないアイヌ語 ape と同源なのは間違いないであろう。露出形 ヒ<pī、被覆形 ホ<pō も古語祖語 (a)poy からの傍証である。

- ・No.83 日本語 灰 の古語 papi とアイヌ語 pas,i:消炭 は同源であろう。
- ・No.84 No.82に示したようにアイヌ語 ape,

uhuy は南島祖語\*apuy からであろう。  
 ・はっきりしないのも多いがこの分野も南島諸語に関わっているようである。

(7) 色関係 (No.87~91) について

表 8.色関係の言語比較

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
87	red 赤	アカシ ★aka-si アク aku	★ma/iRaq	iRah	比TAG◆pula' /★akya't(raise) イMLY★a'Nkat	台PWN: ★makakarā?kat /★makakas(raise) /★maqu:'La?	AN ○ AN ○	AN ○ a'gah(朝) (PHN)	◆hure :赤くある ★maka:開ける :開く	○ aka △ maka △ *ma/iRaq hure △ *pula'	
88	green 緑	ミドリ ◆mido2ri	Ha'tag+ma	◆hid'aw	比TAG◆hi'raw イMLY◆hid'au		AN ○ △ 前鼻音化形 *m-hid'aw-ri	siwnin :緑;黄色(合成語)	-	-	
89	yellow 黄	キ ★ki2(?)	★ma/kunjij	★kuning	比ILC★ku'ning イMLY★kuning	台AMI★kiara'n	AN ○ ○	★siwnin ★ni「木」と ★ki(同上)	○ ki/ni	△ ki/ni △ *kuning siwnin △ *kuning	
90	white 白	シロ ◆siro ●プチ	ma/puti'c ●	◆putih ◆t'ilak (光線)	比TAG:puti' /◆si'law(輝く) イJAV◆sila'	台ATY :mala'vu? 台PWN◆ isila'u	AN ○ ○	<*i'lak(光線)	retar:白くあ peker:白い; 清い;明るい	-	
91	black 黒	クロ ◆kuro-si 暗・暮る ◆kuru	ma/qite'm d2emd2em	◆gelap ◆kelem	比ILC◆kudre'p イMLY◆gelap 比TAG◆kulimil'i	台ATY◆qaliq /◆maka'lux 台SDQ◆meqa'luh	AN ○ ○	◆kur:影→人 ◆kunne :黒/暗くある	○ kuro/ku kuru	○ kur △ *kudre'p △ *gelap	

- ・No.87 鼻音化接尾辞 m- の残るアイヌ語 maka:開くと日本語の語家族、開(ア)く、明るい、赤い、曙、暁、秋などの共通語幹 ak を有し同源であろう。

- ・No.89 No.23の木と同源と考えられる。
- ・No.91 比イロカノ語 kudre'p の幹収縮形、日本語 黒、アイヌ語 kur と同源であろう。

(8) その他 (No.92~100) について

表 9.色関係の言語比較

No.	基礎語	古代日本語	AN祖語		インドネシア・フィリピン言語	その他の言語	日本語評価		関連アイヌ語	アイヌ語評価	
			CAND	DMP			村山説	HP筆者		日本語	AN
92	night 夜	ヨル yo ヨイ★yopi ヤミ★yami	★Rabi'iH	★Rabi ◆beNi	比ILK★arabii' 比TAG★gabi' イMLY◆malam	台ATY★gabi-ar 台BNN★labi-an ×CAL:bo?	AN ○ ALTI AN △	anchikar:夜;晩(合成語) sisirkunne:宵(合成語)	-	-	
93	hot 暑い	アツシ ◆atu-si	(ma)+panas d2aNd2aN	gal.aN panat'	イJAV:panas PHN◆a'tong	台KAN◆kuci'ci 台TSO◆macici	- PHN △	◆sesek:暑くある pop-ke:暖かい	-	△	
94	cold 寒い	サムシ ◆samu-si	◆lami'g (m)di?di?	d.iNin	比TAG◆lami's イMLY:sejuk /◆resap(消え)	台SDQ◆meskui' 台AMI◆si'nau ボSAM◆mu	AN △ -	◆memar:涼しい ◆merayke:寒い ◆me:寒さ	△ -	△ me- △lami's	
95	full 満つ	ミツ mitu	pe nu'q be su'R	penuh	比TAG:duso'g イMN:tapu グCHM:totmot		ALTI AN ○	i-o:満ちる sik:いっぱいになる	-	-	
96	new 新しい	アラタ ★arata ◆サラ	★baq(e)RuH	★baRu	比ILK★baro' イMLY★baru /★baharu	台TSO★baro'o	- AN △	asir:新しい day と同源 ★ar-ta:もう一方・今 ◆sara:空いている	○ arata △ar-ta ○sara	△ ar-baro △*baRu	
97	good 良い	ヨシ ★yo2si yasi/yesi	(ma)dia ◆(ma)pia'	baik	PHN:(ma)diyaw イMLY:baik イMLY: ◆pilih:選ぶ	ボTON◆fili:選ぶ ×CAL◆fil/afil EIOJ◆pipir(拾フ)	- AN ○	no-/no:良く;十分に ◆pirka:良く/美しくある asru:良い ★i-o-usi:獲物が常に多	-	○ pirka △ pilih ○ yosi/i-o-usi	
98	round 丸い	マルシ ★maro2si マリ ★mari	-	bulat	比TAG:bulle'd /bilo'g イMLY:bulant PHN★(ma)liling		AN △	tak:ごろた石;球;玉石 taktakse:丸い si-kari:丸い	-	-	
99	dry 涸れる	カ(涸)ル ★karu ヒ(干)ス pi2	-	★kaRaN ★kal.ah (shell)	比TAG★kaga'ng イJAV◆asat 比TAG★ka'la	ボSMA: ◆m-asat-a EIOJ◆asa(浅)	AN ○ AN △	◆sat:乾いている sat-tek:痩せる	○ asa/sat	○ sat/asat	
100	name 名	◆ナ	◆Nejan	(N)+tag'an ◆	比ISN◆Na'gar イJAV:aran イACE◆nan	イMLY◆nama 台AMI◆NaNan 台KAN◆ngana'i △*NaNan	AN ○ AN △	◆re:名前	△ na/re	-	



・No.96 新ラシ の古語 アラタ とアイヌ語合

表 10. 言語系統と言語名略称

成語 ar-ta:もう一方/今 が意味、音韻  
で同じで、サラ がアイヌ語 sara:  
空いている に対応している。

・No.97 アイヌ語 pirka は南東祖語  
\*pilih に対応し、古語 pirip に通じ、  
日本語 良シ はアイヌ語合成語  
i-o-us-i獲物が群生する所 の音韻圧  
縮形に通じるようである。

・No.99 アイヌ語 sat は日本語  
浅し と対応し、ジャワ語 'asat と  
同源であろう。

言語略号	語族	諸語・語派	言語名
比TAG 比SAM 比MNB 比IMLY	オーストロネシア 語族 (AN)	西部マライ・ポリネシア (PHN)諸語  (インドネシア語派)	タガログ語(フィリピン中部) サマル語(フィリピン中部) マノボ語(フィリピン南部) マライ語(マレーシア、シンガポール、 ブルネイ、インドネシア) インドネシア語(=マライ語) ジャワ語(インドネシア・ジャワ島) イロカノ語(フィリピン北部) カガヤネン語(フィリピン中部) イスネグ語(フィリピン北部) イバタン語(フィリピン北部) チャモロ語(グアム・サイパン・マリアナ) トバ・バタク語(スマトラ島北部) アチェ語(スマトラ島北部) ロティ語(モル島南) ヤーベン語(バブアニューギニア東)
CAND DMP	(by Zorc) (by Dempwolff)	原オーストロネシア語	再構築された原形 再構築された原形
台ATY 台SDQ 台AMI 台YAM 台PWN 台BNN 台KAN 台TSO		台湾諸語(TWN)	アタヤル語(台湾北部) セデック語(台湾北部) アミ語(台湾南島部) ヤミ語(台湾南島部) パイワン語(台湾南島部) ブヌン語(台湾中部) カナカナブ語(台湾中部) ツォウ語(台湾中部)
メCAL メYAP メMOT メBOG		メラネシア語派(MEL)	中央カロリン語(ミクロネシア) ヤップ語(ミクロネシア) モトウ語(バブアニューギニア) ボゲー語(バブアニューギニア)
ポMAO ポHAW ポSAM ポTHT ポFIJ ポTON PP		ポリネシア語派(POL)  原ポリネシア語	マオリ語(ニュージーランド) ハワイ語(ハワイ諸島) サモア語(南太平洋サモア諸島) タヒチ語(ポリネシア) フィジー語(メラネシア) トンガ語(トンガ島) 再構成された原形
ALTI アMON アMAN アKOR アKOU アNAN アORC	アルタイ語族	アルタイ諸語 モンゴル諸語(MO) ツングース諸語(TU)	モンゴル語 満州語 朝鮮語 高麗語 ナナイ語 オロチョン語
日OKI 日YAE 日KAG 日OJ		日本語	沖縄語 八重山群島語 鹿児島方言 日本古代語

(9) アイヌ語、日本語をめぐる言語  
系統関係

上記の基礎語彙比較評価の結果は、ホ  
ームページ「学問の部屋」の筆者の調査  
に基づく、村山説と筆者の追加調査の評  
価結果として、

・日本語の南島諸語との比較評価 (村山  
説の場合)

同源判定数 ○  
53/104 比率 0.510

同源判定数△+○  
57/104 0.548

・日本語の南島諸語との比較評価 (ホ  
ームページ筆者の場合)

同源判定数 ○  
50/104 比率 0.481

同源判定数△+○  
80/104 0.769

であり基礎語彙として日本語は南島諸語からも  
たらされたものであることを示している。

自分なりに出してみた比較評価として、まず

・アイヌ語の南島諸語との比較評価  
同源判定数 ○ 35/122 比率 0.298  
同源判定数△+○ 76/122 0.554

であった。断定し難い語彙も多いが古く南島諸  
語から伝わった語彙であることは間違いないの  
ではないだろうか。従って、アイヌ語は日本語と  
同源・同系の言語といえる。

また、日本語とアイヌ語の比較結果では

・日本語とアイヌ語

同源判定数 ○ 49/122 比率 0.402  
t=3.02

同源判定数△+○ 67/122 0.549  
t=1.99

であり、スワディッシュの分離年代式に当ては  
めた分離年代推定値は 3.0千年から2.0千年前  
となる。縄文末期から弥生中期に相当する値であ  
るが、共通祖語としての縄文語がどのようなもの  
であったかがこの結果から見えてきて、アイヌ語  
としても古く正当な言葉であろうアイヌ語地名用  
語による各地のアイヌ語地名などが縄文地名とし  
て意味のあるものに改めて思える。



## 5. まとめ

我が国の日本語系統研究を通じて、古文献を基にした系統研究では限界があり、時間および地域尺度を広げた系統的な基礎語彙による比較言語学の成果が、始めて日本語系統を明らかにできる。

スワデッシュの基礎語彙100語において上記の調査結果はどちらも南島諸語（オウストロネシア語族）と親族関係を示すものであり、縄文語を同祖とする言語であることを示している。分離年代も無難な値と思える。南島諸語は太平洋の広範囲をカバーし、インドネシア語派からメラネシア語派、ポリネシア語派とに分かれてきたことを示しているが、音韻的な特徴からは日本語はポリネシア語に近く、アイヌ語はより古い、インドネシア語に近いように思える。日本語の場合、弥生時代以降のアルタイ諸語などとの言語接触により音韻的にも変化が大きかったのではないだろうか。

日本語の語源解釈の新たな視点として、語幹(語根)のもとに形成されている単語群を語家族語として見る方法がある。アイヌ語が縄文語を保存していると考えると、日本語語源研究にも新たな展開が期待できる。

たとえば、ak を語幹(語根)とする語家族語に、「開(ア)く」、「明るい」、「赤」、「曙」、「暁」、「秋」などとあり、言葉の形成されていった様子を

を推定できるが、アイヌ語にはこの語幹語 ak の南島語的な前鼻音化された

mak:奥/どこ(疑問詞) maka:開ける

などと意味の重なる同源語であることが分かる。

大森貝塚を発見し縄文文化の提唱者であったE. モースは貝塚の中に人骨が混入していたことを重大視して、それまでの日本人論のアイヌ説に対して、プレアイヌ説をとらえたが日本語「飢え(る)」はアイヌ語から見れば (u-e:お互いを食べる) であり、縄文時代からの語源と知ることが出来る。また、その派生語

wen:悪い (<ue-uni:飢え(の状態)がある)

であり、日本語「悪し」もこの仲間ではないだろうか。

悪し warusi/warosi/asi

<ue-ruy-usi:飢えがいつも烈しい

また、反対の言葉「良し」は

良し <i-o-usi:獲物がいつも多い

など、アイヌ語を介せば元の語源を意味しているように思える。

ホームページ「学問の部屋」のデータ使用を快くご許可いただいたロゼッタストーンさんに深くお礼を述べさせていただきます。

## 参考文献：

- [1]永田良茂「縄文語による地名語源の解釈」人文科学とデータベース第9回公開シンポ '03/12
- [2]永田良茂「百名山からの縄文地名解釈」人文科学とデータベース第10回公開シンポ '04/12
- [3]永田良茂「川地名に関する人体語例—アイヌ・縄文語の立場から—」語源研究No.44 '06/03
- [4]永田良茂「縄文地名の数詞地名例—アイヌ・縄文語の立場から—」 // No.43 '05/03
- [5]永田良茂「縄文地名の証明方法と場所特定の地名用語例 // No.42 '04/03
- [6]芝 丞 「日本語の起源から見た神々の系統」語源研究No.44 '06/03
- [7]ハンドルネーム、ロゼッタストーン ホームページ「学問の部屋」 '04/05~'05/02
- [8]村山七郎、大林太郎 日本語の起源 弘文堂 '73/04
- [9]服部四郎 日本語の系統 岩波書店 '59/01

- [10]村山七郎 国語学の限界 弘文堂 '75/12
- [11]村山七郎 日本語の研究 弘文堂 '74/10
- [12]村山七郎 アイヌ語の起源 三一書房 '92/04
- [13]泉井久之助 マライ・ポリネシア諸語 弘文堂 '75/07
- [14]宮岡伯人[編] 言語人類学を学ぶ人のために 世界思想社 '96/09
- [15]片山龍峰 日本語とアイヌ語 すずさわ書店 '97/02
- [16]鈴木 健 縄文語からヤマト語へ 茨城大学生協 '05/03
- [17]知里真志保 地名アイヌ語小辞典 北海道出版企画センター '56/09
- [18]菅野 茂 アイヌ語辞典 三省堂 '96/07
- [19]田村すす子 アイヌ語沙流方言辞典 草風館 '96/09
- [20]ホームページ 台湾語「台湾語のページ」
- [21]黒崎 久 日本語起源論 牧野出版 '77/04